

2020 年度 事業報告書

2020. 4. ~2021. 3

公益財団法人 神経研究所

公益財団法人 神経研究所

事業報告書

(2020年度)

1. 理事会・評議員会の主な決議・承認・報告事項

2020年6月3日(水) 定時理事会

- (1) 2019年度事業報告の審議及び承認
- (2) 2019年度決算報告及び監査報告の審議及び承認
- (3) 公益認定等委員会からの通知[府益第696号]に関する報告書の審議及び承認
- (4) 任期満了する理事 加藤進昌氏、福原俊明氏、鈴木二郎氏の再任を定時評議員会へ推薦することを決議
- (5) 理事会における代表理事加藤進昌氏の選任(再任)を決議
- (6) 新型コロナウイルスの影響による融資について審議及び承認
- (7) 定時評議員会の招集及び開催について

2020年6月24日(水) 定時評議員会

- (1) 2019年度事業報告の審議及び承認
- (2) 2019年度決算報告及び監査報告の審議及び承認
- (3) 公益認定等委員会からの通知[府益第696号]に関する報告書の審議及び承認
- (4) 理事会より再任推薦の理事 加藤進昌氏、福原俊明氏、鈴木二郎氏の再任を承認
- (5) 理事会における代表理事加藤進昌氏選任(再任)の承認
- (6) 新型コロナウイルスの影響による融資について審議及び承認

2020年6月24日(水) 臨時評議員会

- (1) 2020年度収支予算書(案)臨時理事会承認の報告及び承認

2021年3月3日(水) 定時理事会

- (1) 2021年度事業計画(案)の審議及び承認
- (2) 2021年度収支予算書(案)の審議及び承認
- (3) 2021年度資金調達及び設備投資の見込みについて審議及び承認
- (4) 晴和病院新築に伴う土地の売買契約について審議及び承認
- (5) 任期満了する監事 宮岡等氏の再任を定時評議員会へ推薦することを決議
- (6) 精神神経科学センター新規助成事業の審議及び承認
- (7) 評議員会の招集及び開催について

2021年3月24日(水) 定時評議員会

- (1) 2021年度事業計画(案)の審議及び承認
- (2) 2021年度収支予算書(案)の審議及び承認
- (3) 2021年度資金調達及び設備投資の見込みについて審議及び承認
- (4) 晴和病院新築に伴う土地の売買契約について審議及び承認
- (5) 任期満了する評議員 樋口輝彦氏の再任を承認
- (6) 理事会より再任推薦の監事 宮岡等氏の再任を承認
- (7) 精神神経科学センター新規助成事業の審議及び承認

(1) 附属晴和病院

1. 概況

<入院>

2020年度は新病院建設準備として、5月末に小石川東京病院に仮移転したため、移転準備として移転前から患者数を制限する必要があり、新規入院患者は4月13人、5月17人と、通常の月平均新入院患者数の40名を大きく下回った。また、移転後約半年は稼働病床を60床としたこと、更に、新型コロナウイルス感染拡大を懸念して、入院患者の抑制を余儀なくされたこと、また、移転についての広報不足のためか、紹介患者の減少などが、入院患者減少の原因と分析した。また、平均在院日数が39.7日と、前年と比較して17日弱減少していることも、特筆すべきであり、アスペルガー症候群などの発達障害を対象とする、2週間の検査入院及び、昨年新設した3週間コースなど、選択肢の充実とともに発達障害患者の約20%が該当するといわれる睡眠障害についても、移転に合わせ、睡眠検査設備を刷新し検査を充実させたことで、在院日数の短縮に寄与していると思われる。支出に関しては、医療経費、人件費等で対前年比約5,600万円の節約を実現している。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度
延べ患者人数	32,294	31,606	27,644	25,163	14,219
平均在院患者	88.5	86.6	74.5	68.8	39.0
平均在院日数(3月末)	68	73	61	56.1	39.7
平均単価	17,542	18,574	19,288	18,909	19,671

<外来>

外来の1日平均患者数は前年実績で122.2人であったが、6月の移転前後については、5月106.6人、6月104.0人と数を落としたが、移転3ヵ月後の9月は121.3人と回復し、下半期平均では127.2人となり、年度平均でも119.6人と移転前と遜色ないほどに回復した。これは、移転前の患者の多くが、小石川東京病院での診療継続に応じてくれたことが大きい。平成26年以来外来受診患者総数は上昇し医療収入もほぼ同様である。主な要因はかつて当院がわが国の中心であった睡眠障害診療を復活させたことと、新しく発達障害診療を開始したことによる。

受診患者の内訳についての十分な解析はしていないが、初診患者の半分以上を睡眠障害と発達障害が占めている。統合失調症の占める割合は都内の精神科クリニックではかなり小さくなって、うつ病や神経症圏の患者が中心を占めるようになって久しい。しかし、当院では入院のための初診患者を差し引くと、そういった患者層の受診は漸減傾向が続いている。総数としてはもちろん大きいのであるが、都内ではクリニックが圧倒的に増えてきており、よほどの特徴を持たない限りは大きな増加は望めないように思われる。

最近では、発達障害の中でもADHDの一部の例では、睡眠障害の一種である過眠症を合併することがわかってきた。発達障害と睡眠障害と対象を異にしてそれぞれ独立してスタートした外来であるが、両者が協働して精神科医療の隠れたニーズを掘り当てたということができるようになると思う。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度
延べ患者人数	32,389	33,231	33,456	33,000	31,444
新患人数	1,138	830	861	805	684
平均人数	119.5	122.6	124.8	122.2	119.6
平均単価	6,050	5,888	5,762	5,840	5,770

<デイケア>

デイケアの受け入れ人数は飛躍的に増え、平成 26 年度に大規模デイケアの算定を取得後、建物床面積から最大 50 人までの受け入れを可能としたが、受け入れが難しい状況が続いていた。平成 30 年 4 月の診療報酬改定で小規模ショートケアが新設されると、下記の表でも顕著であるが、デイケアからショートケアへの移動が多くみられ、特に発達障害は小規模ショートケアが適しており、多くの参加者が移動した。その後、デイケア室の努力により、生活支援などのデイケアへの誘導や一時激減したリワークの新規参加者も徐々に回復傾向にあったが、コロナ禍により、2020 年 4 月、5 月の土曜デイケアは全休とせざるを得ず、一時的に大きく患者数を減らした。2020 年 5 月末の小石川東京病院への移転に伴い、最大 70 名までの大規模デイケアが実現可能となり、土曜のデイケアでは 70 人に迫るなど、回復の兆しはあるものの、長引くコロナ対策と共に、厳しい状況は続いている。2020 年度は発達障害患者の家族会が発足したことは明るい話題であり、患者及び患者家族が満足いく、バリエーション豊かで充実したプログラムの構築と提供を引き続き継続したい。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度
ショート・ケア算定回数	2,601	2,857	3,672	3,177	2,821
デイケア算定回数	3,406	4,064	2,575	2,591	1,915

<作業療法>

作業療法に関しては、ここ数年、産休や退職などの理由で、作業療法士 2 名の定員枠が充足されず、充足されても一時的であり、積極的な運用ができなかったことと、入院患者数、特に長期入院患者数が減少していることが背景にあった。平成 30 年度終盤に作業療法士を 1 名採用し、2 名体制を作り、令和 1 年度で算定人数の改善傾向にあったが、再び、作業療法士が退職し、非常勤の作業療法士 1 名で令和 2 年を迎えた。小石川東京病院では精神科作業療法の算定ができないため、デイケア室の協力のもと、病棟創作クラブで必要最低限の作業療法を提供している。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度
作業療法算定人数	4,995	4,463	3,053	3,492	89

<看護部>

小石川東京病院へ診療場所を移行した際は 1 看護単位で開始したが、患者数が徐々に増加したことにより 12 月より 2 看護単位とすることができた。年間を通し地域一般入院料 15 : 1、看護補助者加算 30 : 1 の要件を満たすことができた。発達障害や睡眠障害の検査入院や地域移行への援助のため多職種連携を積極的に行えた。またコロナ禍ではあるが、職員、患者から発生はなく感染管理を評価してよいと考える。来年度も引き続き接遇の向上と安全管理、感染管理の基本方針を徹底し実践していく。

2. 実習の受け入れ

1) 医療相談室

- ・日本福祉教育専門学校：2020年10月（1名）

2) 心理室

- ・駒沢女子大学：2020年10月～2021年3月（1名）計1名
- ・人間総合科学大学大学院：2010年11月～12月（3名）、2021年1月～5月（2名）計5名
- ・東京女子大学大学院：2020年6月～10月（2名）、10月～2021年3月（1名）計3名
- ・聖心女子大学大学院：2020年8月～9月（1名）計1名
- ・昭和女子大学大学院：2020年6月～9月（1名）、10月～2021年3月（2名）計3名
- ・帝京大学大学院：2020年6月～9月（1名）計1名
- ・帝京平成大学大学院：2020年9月～10月（1名）、2020年11月～12月（1名）計2名
- ・早稲田大学大学院：2020年10月～11月（2名）、12月～2021年1月（2名）、2021年2月～3月（3名）計7名

3) 看護部

- ・板橋中央看護専門学校 3年課程：2021年1月～3月（デイケア3クール計9名）
- ・東京工科大学医療保健学部看護学科：コロナ禍のためすべての臨地実習中止

(2) 附属睡眠呼吸障害クリニック

睡眠呼吸障害クリニックは平成11年11月にわが国で最初に開設したクリニック形式の睡眠医療診療専用施設である。日本睡眠学会の認定医療機関でもあり、主に睡眠呼吸障害、睡眠時無呼吸症候群の診療をしている。他にナルコレプシーなどの過眠症、レム睡眠行動障害、周期性四肢運動障害、レストレスレッグス症候群などの睡眠障害も診療できる体制を整えている。

睡眠時無呼吸症候群は睡眠中の呼吸停止により睡眠の質の低下をきたし、日常生活に多大な影響を与えるのみならず、心血管系、代謝内分泌系への悪影響もある。高血圧、心不全、不整脈、動脈硬化の進行による心筋梗塞・脳梗塞、糖尿病などの罹患率・死亡率が増加することが疫学調査により分かっている。いわゆる生活習慣病と密接な関連がある病態であり睡眠呼吸障害の診療は予防医学の見地からも重要であると考えている。

当クリニックは睡眠医学を専門とする医師、検査技師による診療体制を整えている。患者のみならず他の医療機関からも評価されており、大学病院をはじめとする総合病院、医院などから多くの患者が紹介されている。呼吸器内科、精神科、耳鼻咽喉科を専攻する医師で診療を行い、科をまたがる病態にも対応できる体制をとっている。

従来は睡眠呼吸障害を主に診療していたが、睡眠呼吸障害以外の過眠症、睡眠時随伴症などの診療希望も多くなっているため、これらの疾患も積極的に診療している。

最近是一般の病院、医院などで睡眠時無呼吸症候群の簡易検査が容易に施行可能になっているが、正確な診断と的確な治療をするためには終夜睡眠ポリグラフ検査(PSG)が必要である。当クリニックでは最新式の睡眠ポリグラフィソムノスターシステムによるPSGを多数施行している。治療は主に持続陽圧呼吸療法(CPAP)を用いている。CPAPの治療患者数は日本有数の多さである。

睡眠時無呼吸症候群は高い有病率があるにもかかわらず、未検査・未治療の患者がいまだに多いため、医療関係者・一般の人々に対する啓発活動もおこなう。

過眠症に対しては睡眠潜時反復検査(MSLT)が診断に必須であり、当クリニックでも睡眠潜時反復検査を施行している。新規の患者が多く今後は過眠症の患者の比率の増加が予測される。

COVID-19の感染流行により2020年度の診療状況は大きく変化した。クリニック内の密な状態を避けるために多くの患者でCPAP再診の受診間隔を2~3か月に延長せざるをえず外来患者数は減少した。一般的な医療機関の受診控えの影響も受け新患、PSG検査の減少があった。

【2020年度の診療実績】

- ・外来患者数 月間1,440名、年間延べ17,480名
- ・睡眠時無呼吸症候群の持続陽圧呼吸(CPAP)管理患者数 月平均約1,930名
- ・PSG検査(CPAP導入のための検査も含む) 月平均約23名

(3)精神神経科学センター

I 助成事業

1. 公募による助成

1) 研究助成課題等選考委員会(書面)

開催回数:1回(2020年6月22日)

2020年6月22日開催時の申請件数は、調査研究9件、研究集会等3件、採択は、調査研究4件、研究集会等2件

- ①申請者 大久保 亮(NCNP トランスレーション・メディカルセンター情報管理解析部)
課題名「精神科通院患者の喫煙率・大量飲酒率の健常者との比較:既存統計資料を用いた大規模横断調査」
- ②申請者 田村 俊介(九州大学大学院医学研究院 精神病態医学)
課題名「言語性幻聴の治療に有用な聴覚訓練課題及びニューロフィードバックシステムの開発」
- ③申請者 植田 堯子(NCNP 神経研究所 神経薬理研究部)
課題名「自閉症スペクトラム障害における血液由来因子による病態制御機構の解明」
- ④申請者 竹田 康二(NCNP 病院 第二精神診療部)
課題名「触法行為歴のある統合失調症患者における心拍数・心拍変動(Heart Rate Variability:HRV)に関する研究」
- ⑤申請者 西野 一三(NCNP メディカル・ゲノムセンター ゲノム診療開発部)
集会名「筋病理セミナー」
- ⑥申請者 高橋 祐二(NCNP 病院 脳神経内科診療部)
集会名「第16回 NCNP 神経内科短期臨床研修セミナー」

【文中のNCNPは、国立精神・神経医療研究センターの略称】

2) 睡眠健康推進委員会(書面)

開催回数:1回(2020年8月27日)

2020年8月27日開催時の申請件数は10件、採択は4件

①睡眠科学分野1件

申請者 岡部 聡美(筑波大学大学院人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻)

課題名「REM睡眠中の嗅覚刺激呈示による夢への効果」

②睡眠医学分野1件

申請者 竹島 正浩(秋田大学医学部附属病院 精神科)

課題名「行動バイオマーカーによるADHD児睡眠障害の評価・治療法の開発」

③睡眠社会学分野2件

申請者 田村 典久(広島大学大学院人間社会科学研究所)

課題名「思春期生徒におけるSocial Jetlagの縦断的な経過と心身健康への影響」

申請者 谷岡 洗介(公益財団法人神経研究所研究部 睡眠学研究室)

課題名「若者の睡眠スケジュールとこれに関連した睡眠衛生事項の実態に関する Web 調査」

3) てんかん医療志向若手人材育成事業

国立精神・神経医療研究センター病院におけるてんかん医療の人材養成を助成する 新助成事業として発足。2021 年度も募集を継続する。

2. 指定研究助成

1) パーキンソン研究助成

継続指定研究 (3 年目) 2 件

①申請者 野川 茂 (東海大学医学部付属八王子病院 神経内科)

課題名「パーキンソン症候群・認知症の地域医療推進活動」

②申請者 赫 寛雄 (東京医科大学 脳神経内科)

課題名「レビー小体病、および進行性核上性麻痺、血管性パーキンソン症候群のすくみ足に対する在宅リハビリテーションに関する研究」

2) 睡眠学術研究助成

継続指定研究 (2 年目) 1 件

申請者 成澤 元 (愛知淑徳大学 心理学部心理学科)

課題名 児童・思春期の子どもの睡眠健康をはぐくむ睡眠教育プログラムの構築と効果検証

II 普及啓発事業

1. 睡眠に関する正しい知識の普及啓発活動

1) 市民公開講座開催回数：1 回

WEB 配信による開催：2021 年 3 月 13 日 (土) 視聴者数 862 名

2) 出張睡眠市民公開講座：実施 10 件 中止 7 件

大阪府富田林市 富田林市立中央公民館：2020 年 8 月 26 日 (水) 参加者数 29 名

和歌山県橋本市 保健福祉センター：2020 年 9 月 12 日 (土) 参加者数 60 名

愛知県刈谷市 刈谷市社会教育センター：2020 年 10 月 23 日 (金) 参加者数 24 名

福島県白河市 白河市中央保健センター：2020 年 10 月 27 日 (火) 参加者数 49 名

神奈川県川崎市精神保健福祉センター 川崎商工会議所：2020 年 11 月 18 日 (水) 参加者数 50 名

神奈川県平塚市 平塚市保健センター：2020 年 11 月 18 日 (水) 参加者数 9 名

北海道空知郡上富良野町 上富良野町保健福祉総合センターかみん：2020 年 11 月 27 日 (金) 参加者数 40 名

山形県西村山郡河北町 サハトベに花：2021 年 2 月 19 日 (金) 参加者数 20 名

静岡県静岡市 静岡市南部生涯学習センター：2021 年 2 月 25 日 (木) 参加者数 30 名

山口県長門市長門市地域医療連携支援センター：2021 年 3 月 11 日 (木) 参加者数 40 名

3) 学校訪問型睡眠講座：実施 19 件 中止 29 件

宮城県 串間市立福島小学校：2020 年 9 月 3 日 (木) 参加者数 49 名

茨城県 つくば市立柳橋小学校：2020 年 10 月 19 日 (月) 参加者数 110 名

長崎県 佐世保市立赤崎小学校：2020 年 10 月 20 日 (火) 参加者数 262 名

群馬県 高崎市立大類小学校：2020 年 10 月 20 日 (火) 参加者数 70 名

岡山県 真庭市立月田小学校：2020 年 10 月 22 日 (木) 参加者数 86 名

福岡県 福岡市立福浜小学校：2020 年 10 月 28 日 (水) 参加者数 77 名

石川県 津幡町立条南小学校：2020 年 11 月 5 日 (木) 参加者数 175 名

和歌山県 海南市立加茂川小学校：2020 年 11 月 10 日 (火) 参加者数 106 名

徳島県 阿南市立津乃峰小学校：2020年11月13日(金) 参加者数 60名
大阪府 和泉市小学校教育研究会保健部会：2020年11月16日(月) 参加者数 21名
埼玉県 さいたま市立大谷口小学校：2020年11月26日(木) 参加者数 26名
千葉県 南房総市立富山中学校：2020年12月2日(水) 参加者数 115名
静岡県 沼津市立大平小学校：2020年12月4日(金) 参加者数 25名
神奈川県 横浜市立末吉中学校：2020年12月4日(金) 参加者数 35名
埼玉県 深谷市立本郷小学校：2020年12月10日(木) 参加者数 30名
和歌山県 田辺市立龍神小学校：2020年12月21日(月) 参加者数 27名
徳島県 阿波市立柿原小学校：2021年2月5日(金) 参加者数 58名
愛知県 田原市立赤羽根小学校：2021年3月11日(木) 参加者数 34名
北海道 札幌市立上野幌中学校：2021年3月5日(金) 参加者数 208名

4) 睡眠健康推進機構長賞授与

名古屋第一赤十字病院 心療相談センター長 精神科部長 太田龍朗先生へ授与
例年は睡眠の日・市民公開講座で表彰セレモニーを行ってきたが今年度はコロナ禍のためセレモニーは中止した。

2. 広報活動

1) ニュースレター発行回数：2回

No.5：2020年8月発行、 No.6：2021年2月発行

III その他

旧財団(公益財団法人精神・神経科学振興財団)の歴史・業績誌を発刊した。

3. 研究部

研究部は臨床精神薬理研究室、睡眠学研究室、発達障害研究室の3部門に分けられる。しかし、臨床精神薬理研究室は臨床試験を行う部門ではあるが、特に独立して精神薬理学を専門にする医師が現在是在籍していないために、睡眠障害と発達障害に関して臨床試験を行う場合にほぼ限られる。

睡眠学研究については、別法人である「睡眠総合ケアクリニック代々木」で行っている研究実績を紹介するが、晴和病院でも近年は活発に睡眠に関する共同研究を行っており、今後は研究報告も増えていくことが期待される。

外来部門でも紹介したように、ADHDと過眠症を合併する症例を対象として、メチルフェニデートの薬理学的作用機序を探る研究「注意欠如多動性障害の薬物療法の神経基盤の解明」(主任研究者：高橋英彦東京医科歯科大学教授)が2019年度から採択され、伊東若子医師が分担研究者として今後5年間の研究を行うことになった。これは戦略的国際脳科学研究推進プログラム(略称：国際脳)という大型研究の一部であり、当院での臨床実績が評価されたものといえる。

(1) 睡眠学センター

事業報告

① 睡眠相後退障害 (DSPD) の重症度評価指標の信頼性と妥当性に関する研究

DSPD は、若年人口の1%以上に存在する概日リズム睡眠障害の代表的疾患であり、社会生活への悪影響が大きいことから、早期診断と重症度評価に応じた治療的方策の立案が必須である。本研究では、双極性障害の DSPT を対象に開発された重症度スケールである **Biological Rhythm Interview of Assessment in Neuropsychiatry (BRIAN)** の、双極性障害を有さない原発性 DSPD での重症度評価における有用性を、睡眠総合ケアクリニック受診連続例を対象として検証し、健常者との比較を元にカットオフ値を作成した。その結果、本スケールが高い併存妥当性、再現性、構造妥当性を有すること、本スコア 30 点が病的レンジのカットオフなることを確認し、**Sleep Medicine** 誌に投稿・採択された。

② AI を用いた閉塞性睡眠時無呼吸症候群 (OSAS) の予測に関する研究

OSAS 患者、健常者の二次元セファログラム写真を用いて、AI による OSAS 中等症～重症の予測を試みた。結果、感度、特異度ともに 80%を上回ることを報告し、**Sleep and Breathing** 誌に投稿した。

③ コロナ禍における若年者の睡眠実態に関する研究

Web 調査により、緊急事態宣言下 (昨年 5 月) における若年者 (学生と労働者) の睡眠習慣ならびに睡眠問題、日中機能の実態を調査した。その結果、学生層 (在宅学習にシフト) では、睡眠時間帯の後退と睡眠時間の増加、週末の社会的時差ボケの減少が確認されたが、比較的平常の通勤習慣が保持された労働者層では変化はみられなかった。また、日中機能の指標となる PH-9、K-6、SF-8 にも悪影響はみられなかった。したがって、在宅学習が長期化した場合の悪影響は懸念されるものの、わが国の若年層においてはコロナ禍での睡眠問題は少ないと判断された。

④ 過眠症における生活習慣病の実態とその関連要因に関する研究

ナルコレプシーでは、生活習慣病の有病率が高いことが指摘されているが、日本人患者での実態は明らかでなく、類縁疾患である特発性過眠症 (IHS) との差異は明らかでない。本研究では、オレキシン分泌と密接に関連するナルコレプシータイプ 1 (NT1) での生活習慣病有病率は、NT2 ないし HIS より顕著に高く、その差は 35 歳以上で顕在化していたが、特に血圧上昇に関しては治療のために服用している精神刺激薬の影響がうかがわれた。また NT2 おいて、生活習慣病リスクの上昇にヒト白血球抗原 (HLA) DQB1*0602 の陽性、ならびに閉塞性睡眠時無呼吸の罹患 (無呼吸低呼吸指数 15/時間以上) が関与していることが示された。なお IHS については、生活習慣病有病率は一般人口と差が無く、その発現要因が肥満度上昇と高齢化であったことから、疾患との関連は乏しいものと判断された。

(2) 発達障害研究室

成人の自閉症スペクトラム (Autism spectrum disorder; ASD) を主な対象とする専門外来は 2013 年度に新設し、2020 年度末までの累計初診患者数はおよそ 2,430 名に達している。専門外来と同時に開いたデイケア (発達障害ショートケアプログラム) も順調に推移している。2020 年度はコロナ禍の中であったが、デイケア活動は感染対策を行ったうえで続けられた。

発達障害者は入院適応になることは少ないが、心理検査の予約が殺到したために 2~3 週間の検査入院システムを導入した結果、今では月に 2~3 人が入院するようになっている。個室を使

用することもあって、医療収入の増加と平均在院日数の短縮に大いに貢献している。この検査入院では、専属の臨床心理士がほぼ主治医のように担当するのが特徴である。これは今の診療報酬では心理士が入院患者に対応しても医療費にカウントできないことを踏まえて、差額病室代金をそれに充てるという意図が込められている。検査入院する患者のすべてが発達障害であるはずはもちろん無く、神経症やパーソナリティ障害がむしろ多いのが現状であるが、そういう場合にも高率に外来での心理カウンセリング（特別予約診療費：5000円）に誘導できることは、診療上も病院の特色になっている。

デイケアでは、成人期の発達障害者を対象とした専門プログラム（ASD 専門、ADHD）だけでなく、大学生対象の学生プログラム、そして専門プログラム修了者向けピア・サポートプログラムを行っている。また、就労準備性を高めることを目的とした就活講座も展開し、ひきこもり防止や自立を促すための支援を図っている。これらプログラム・コース参加者は増加傾向にある。

研究面では、日本医療研究開発機構（AMED）事業において、2018-2020 年度、「発達障害を有する大学生（中退者・引きこもりを含む）へのショートケアプログラム開発と包括的支援システムの構築」に臨床心理課の満山かおる主任をはじめデイケアスタッフが参加し、大学生プログラムおよび家族プログラム開発・マニュアル作成に携わった。また、2020-2021 年度、厚生労働科学研究費（厚労科研）の「青年期・成人期の自閉スペクトラム症および注意欠如多動症の社会的課題に対応するプログラムの開発と展開」では、臨床心理課の高橋里衣奈を中心にデイケアスタッフが参加しており、ASD 専門プログラム修了者がピア・サポートを通し、自助会の運営に必要と考えられる自己理解の促進やスキル獲得を図りながら持続可能なプログラムの開発・マニュアル作成に携わる。

こうした日頃からの実績から、成人期の発達障害の診療・支援において高度な専門性を有する医療機関（東京都拠点医療機関）として認められ、2020 年度から東京都が実施する「発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業」を受託するに至った。この事業では、2018-2019 年度に行った研究「発達障害診療専門拠点機関の機能の整備と安定的な運営ガイドライン」（研究代表者：加藤進昌）の研究成果を反映して、都内医療機関の医療従事者に向けた専門人材育成研修の企画・運営と医療機関への個別支援、都内医療機関の調査・情報提供、区部・多摩地区の各地域拠点医療機関との連携を図り、専門医療機関ネットワーク構築に向けた活動を行った。この活動は次年度も継続的に展開し、成人期のみならず児童思春期との連携を図る予定である。

4. 倫理審査委員会（2020 年 4 月～2021 年 3 月）

開催回数：3 回

（2020 年 7 月 13 日（月）、2020 年 11 月 30 日（月）、2021 年 3 月 22 日（月）開催）

2020 年 7 月 13 日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 6 件

① 申請者 本多 真

第 188 号-2

「過眠を呈する睡眠障害の病態に関与する遺伝子の検索とその機能および末梢血リンパ球の自己抗原特異的増殖反応の研究」

② 申請者 柳原万里子

第 161 号-5

「ストレスレグス症候群における中枢神経感作に関する研究」

③ 申請者 満山かおる

第 190 号-2

「精神科病院における心理臨床業務知り得たデータ解析研究」

④ 申請者 反町絵美

第 187 号-2

「発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業」

⑤ 申請者 井上雄一

第 194 号

「わが国の若年者における覚醒・睡眠相後退障害の実態と発現関連要因に関する検討」

⑥ 申請者 井上雄一

第 198 号

「ICOSS - international COVID SleepStudy」

2) 新規提出

① 申請者 伊東若子

第 195 号

「聴性定常反応による眠気の評価」

② 申請者 宮岡佳子

第 196 号

「成人発達障害患者が持つ困難とその対処—成人発達障害に適した個人精神療法の技法に関する予備的研究」

③ 申請者 満山かおる

第 197 号

「成人発達障害者における社会性の障害の検討—夫婦間コミュニケーションの視点から—」

④ 申請者 中山秀章

第 199 号

「高度肥満患者の睡眠呼吸障害における日中及び夜間高二酸化炭素血症による臨床的違いの検討」

⑤ 申請者 中山秀章

第 200 号

「睡眠関連呼吸障害疑い症例に潜在する遅発型ポンペ病スクリーニング」

⑥ 申請者 對木悟

第 201 号

「舌吸引型口腔装置が閉塞性睡眠時無呼吸に与える環境：無作為化比較試験」

⑦ 申請者 谷岡洗介

第 202 号

「線維筋痛症とレストレスレッグズ症候群の関連性に関する研究」

3) 再提出

① 申請者 川嶋真紀子

第 179 号-5

「成人の発達障害のための検査入院」

② 申請者 加藤進昌

第 117 号-8

「成人発達障害に対するデイケアプログラムの効果判定に関する研究」

③ 申請者 加藤進昌

第 168 号-5

「中枢神経刺激薬による治療的变化の生物学的指標同定」

2020年11月30日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 7件

①申請者 宮岡 佳子

第 196 号-2

「成人発達障害患者が持つ困難とその対処—成人発達障害に適した個人精神療法の技法に関する予備的研究」

②申請者 武田俊信

第 203 号-2

「発達障害および定型発達者への新型コロナ・パンデミックの影響」

③申請者 中山秀章

第 200 号-2

「睡眠関連呼吸障害疑い症例に潜在する遅発型ポンペ病スクリーニング」

④申請者 中山秀章

第 199 号-2

「高度肥満患者の睡眠呼吸障害における日中及び夜間高二酸化炭素血症による臨床的違いの検討」

⑤申請者 伊東若子

第 195 号-2

「聴性定常反応による眠気の評価」

⑥申請者 井上雄一

第 182 号-4

「検診版 STOP-Bang 質問紙の有用性の検討」

⑦申請者 對木悟

第 201 号-2

「舌吸引型口腔内装置が閉塞性睡眠時無呼吸に与える影響：無作為化比較試験」

2) 新規提出

①申請者 大河内範子

第 204 号

「膠原病患者を対象としたグループ支援プログラムの開発」

②申請者 駒田陽子

第 205 号

「小学生の睡眠習慣と眠気の関係」

③申請者 川嶋真紀子

第 206 号

「発達障害当事者に対する COVID-19 の心的負担に関する質問紙調査」

④申請者 細川幸二

第 207 号

「再発防止を目指したアドヒアランス向上を目指して（仮）」

3) 再提出

①申請者 川嶋真紀子

第 179 号-6

「成人の発達障害のための検査入院」

②申請者 満山かおる

第 197 号-2

「成人発達障害者における共感性の検討—夫婦間コミュニケーションの視点から」

2021年3月22日開催時の申請件数

1) 迅速審査で対応した申請への本承認の確認 6件

①申請者 谷岡 洸介

第202号-2

「線維筋痛症とレストレスレッグズ症候群の関連性に関する研究」

②申請者 川嶋 真紀子

第179号-7

「成人の発達障害のための検査入院」

③申請者 駒田 陽子

第205号-2

「小学生の睡眠習慣と眠気の関係」

④申請者 大河内 範子

第204号-3

「膠原病患者を対象としたグループ支援プログラムの開発」

⑤申請者 川嶋 真紀子

第206号-2

「発達障害当事者に対するCOVID-19の心的負担に関する質問紙調査」

⑥申請者 満山 かおる

第197号-3

「成人発達障害者における共感性の検討 - 夫婦間コミュニケーションの視点から - 」

2) 新規提出

①申請者 本多 真

第208号

「脳脊髄液中のオレキシン定量および過眠症関連分子の解析」

②申請者 柳原 万里子

第209号

「レストレスレッグズ症候群における中枢神経感作に関する疫学調査（縦断調査）」

③申請者 高橋 里衣奈

第210号

「自閉スペクトラム症に対するピアサポートを活用したプログラムの開発」

④申請者 川嶋 真紀子

第211号

「発達障害を有する大学生へのショートケアプログラム開発」

⑤申請者 谷岡 洸介

第212号

「わが国のナルコレプシーの実態に関する疫学研究」

3) 再提出

①申請者 満山 かおる

第190号-3

「精神科病院における心理臨床業務で知り得たデータ解析研究」

②申請者 反町絵美

第187号-3

「発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業」

5. 治験審査委員会 (2020年4月～2021年3月まで)

開催回数 : 9 回

1. 2020年6月25日 (木) : 継続の可否について 1件
2. 2020年7月30日 (木) : 継続の可否について 1件
3. 2020年9月24日 (木) : 継続の可否について 1件
4. 2020年10月22日 (木) : 継続の可否について 2件
5. 2020年11月26日 (木) : 継続の可否について 2件
6. 2020年12月17日 (木) : 継続の可否について 2件
7. 2021年1月28日 (木) : 継続の不可について 3件
8. 2021年2月25日 (木) : 継続の不可について 2件
9. 2021年3月25日 (木) : 継続の不可について 2件

報告事項 1件